

## 2014 年度点検・評価シート

## I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。 【 A 】
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

## II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<p>スポーツ科学科では、学科の特色を踏まえ、それぞれの授業内容に適した授業形態（講義・演習・実験等）を明示している。また、授業の効果を高めるために、いくつかの授業では受講者数の調整を行っている。これまで 1～3 年次の履修登録の上限は設定（44 単位）されてきたが、4 年次の履修登録の上限は設定していなかった。2014 年度入学者から 4 年次の履修登録の上限を 49 単位と設定した。</p> <p>健康科学科では、教務委員会を設置し学士課程教育の基本的事項を協議している。教養科目・専門基礎科目・専門科目においては、講義、講義と演習/実習の組み合わせ、演習/実習の形態で授業を行っている。授業の形態と方法についてはシラバスに記載し、第 1 回目の授業において、より詳細に学生への周知をはかっているところである。また、学生の学力に照らし合わせて、医療・健康領域の専門職教育を遂行するための努力も各教員においてなされている。さらに医療の国際化に資する臨床検査技師育成のために専門基礎科目に「医療英語」を設けている。医療分野を担う学生としての倫理観の育成という観点から基礎教育科目「生命倫理学」を必修科目としている。また、履修登録の上限単位数を 49 単位以内（キャップ制）とすることを定めている。臨床検査技師、作業環境測定士(第Ⅱ種)、食品衛生監視員などの国家資格関係科目が多いため、他学科より多い科目設定となっている。履修科目登録については、学期開始時に学年ごとのオリエンテーションを開催し、学科主任・教務委員などより詳細な説明がなされている。またオリエンテーション以外にも学生の質問に教員・職員が対応している。このような履修支援体制を維持しているため、これまで卒業要件単位数を大幅に上回るような問題は発生していない。</p> <p>学生の主体的参加を促す授業方法については各教員が授業の特性に応じた方法を検討するとともに、主体的な学びの重要性や有効性を学生に理解させることを意図して演習形式の授業重視し数多く配置している。</p>
4-3-2	<p>スポーツ科学科では、全学シラバス改善検討プロジェクト委員会が作成したシラバス書式に従い、記載内容の統一を図った。また、「シラバスセルフチェックシート」を作成し学科員に提示し、授業内容・方法とシラバスの整合性を図った。さらに、シラバス記載状況をチェックする体制を学科内に整えた。</p> <p>健康科学科では、学科協議会等でシラバス作成の目的や記載の留意事項について確認している。現在、適正なシラバス記載を行う仕組みが整えられている。授業科目の到達目標、受講要件、授業計画の明示、準備学習の内容、成績評価基準及び成績評価方法、参考文献等の記載はほぼ達成されている。今後、教務委員・学科主任による点検実施の制度化も図る予定である。なお、全学的には、全学共通の書式によるシラバスを作成しており、また、その検証体制が構築されている。</p> <p>2013 年度学生による授業評価アンケート結果では、教員はシラバスを授業に反映していたかの設問に対して 53%の学生が肯定的な回答をしている。</p>
4-3-3	<p>スポーツ科学科では、シラバスに成績評価の基準・評価項目・評価の割合を明示し、学生に周知を図るとともに、学則に定めた単位制度の趣旨に基づいて適切に単位認定を行っている。</p> <p>健康科学科では、大学の方針に則して、また国家資格関連の専門科目においては学科協議会で厳格な成績評価を行っている。シラバスにおいて成績評価の基準・評価項目・評価の割合を明示し、学生に周知を図っているところであるが、今後、本学科においては「成績評定に関する取扱い」を制定する予定である。</p>

	また、既修得単位の認定については基準を定め、それに基づいて両学科ともに適切に認定している。
4-3-4	<p>スポーツ科学科では、全学の授業評価アンケートを毎年実施しているが、全開講科目が対象ではなく、その結果をどのように授業改善に結びつけるかは各教員に委ねられている。独自の授業評価を実施している教員もいるが、その有用性について検討の余地がある。また、2013年7月には「スポーツ・体育における体罰問題について、スポーツ科学科授業での取り組みを考える」というテーマでFD研修会を実施した。</p> <p>健康科学科では、学期ごとに実施する科目の定期試験や課題レポート、または演習/実習における実技等によって教育成果を確認している。また、学生による授業評価結果を受け取り、個別に改善に結びつけている。授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修として平成25年度は公開FD講演会（「大規模講義における効果的なプレゼンテーションのコツ」）を実施した。この講演会にはスポーツ科学科も参加した。また、今後、学科として具体的な改善システムの構築を図る予定である。また、国家試験合格に向けて、3年生・4年生への指導、特別補講授業、模擬試験を積極的に取り入れた。</p> <p>教育成果の検証については、学部FD委員会が責任主体となり、その手続きを明確にするとともに、その検証プロセスを明確にしている。</p>

## 【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	学部として、シラバス記載状況をチェックする体制を整えたことによって、記載内容の精粗が改善された。
4-3-3	学部として、シラバスに成績評価の基準・評価項目・評価の割合を明示したことによって、成績評価に関する曖昧さが解消された。
4-3-4	健康科学科における教育成果は、試験成績、臨地実習における指導外部教員からの評価、国家試験合格率、就職状況が、その指標として挙げることができる。国家試験合格率はここ数年で最も高く（85.5%）、合格者数も65名（全国10位）と健闘している。卒業生の就職先の多くは医療機関や一般企業であるが（希望者就職率100%達成）、大学院に進学する学生もおり、教育目標にそった成果が上がっていると考えている。卒業判定は厳密な単位取得判定をもとに行われ、最終判定は学科協議会をへて、学部教授会の議決をもって決定されている。

## 【改善すべき事項】

4-3-1	スポーツ科学科では、4年次前期に卒業に必要な単位を取得できなかった学生が、単位数によって後期に再度登録することができない場合も生ずると考えられる。年度初めのガイダンスにてそのようなケースを未然に防ぐようにする。健康科学科では厚生労働省の国家資格の必須科目が多く、学年毎の年度初めのガイダンスで履修にあたっての注意点を説明し、適正な履修を促している。
4-3-2	学生に対するシラバス内容の周知徹底を図る。
4-3-3	
4-3-4	学部として、授業評価アンケートの結果をどのように活用するのか検討する必要がある。全学の授業評価アンケートを毎年実施しているが、全開講科目が対象ではなく、その結果をどのように授業改善に結びつけるかは各教員に委ねられている。

## Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

学部教授会議事録（CAP制について）、本学HPウェブシラバス、学部長会議議事録（シラバス改善検討プロジェクト委員会報告）、シラバス記入例、シラバスセルフチェックシート（学科教務委員会にて作成）							
区分		第1期生	第2期生	第3期生	第4期生	第5期生	第6期生
		2009年 第55回	2010年 第56回	2011年 第57回	2012年 第58回	2013年 第59回	2014年 第60回
本学	合格率(%)	71.0	77.8	64.8	61.5	76.7	85.5
	合格者(人)	49	56	35	32	46	65
	受験者(人)	69	72	54	52	60	76
全国	合格率(%)	71.8	67.8	67.0	75.4	77.2	81.2
	合格者(人)	2,657	2,753	2,652	3,027	3,162	3,368
	受験者(人)	3,701	4,060	3,959	4,012	4,097	4,148

## 【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018

中期目標 (2014～ 2018)	4・3・2 シラバスの記載内容が学生に 周知徹底されている。	学生による授業評価アンケートの設問： 「シラバスの内容を理解しているか」への 肯定的な回答の割合。	→					
	授業評価アンケートの結果の活用方 法や具体的な授業改善について検討 する。	授業評価アンケートの結果を分析し、そ れを踏まえた授業改善が具体的に提言さ れる。	→					
14 年度 目標	4・3・2 シラバス記載内容の周知徹底 について検討を始める。	左記の検討内容が学科協議会、学部教授 会等で報告されている。	→	A				
	4・3・2 シラバスセルフチェックシー トの有用性について検討する。	左記の検討内容が学科協議会、学部教授 会等で報告されている。	→	A				
	4・3・4 学科単位で授業評価アンケー トの分析を行う。	学科での分析結果をまとめたものが学部 教授会に提出される。	→	A				